北信教育事務所だより

～子どもに発し、子どもに還る　学校づくり・授業づくり～

令和6年 12 月 18 日　第6号

「研修と実践のつながり」。これが本号の注目ポイントです。研修参加者が，研修で学んで感じたことを，自校等でどのように実践につなげているかを取材し，まとめてみました！

第３回日々の授業改善研修

11 月 19 日（火）
会場：長野合同庁舎

今回は 30 名の参加があり，教科・領域，食に関する指導，学校保健のグループに分かれ，今までの実践の成果や課題を発表し合ったり，これから行う単元や授業づくりについて考えたりしました。実践発表では，授業中の発言や反応，学習カードの振り返り等，子どもの具体の姿を通して語り合う先生方の姿が印象的でした。

研修のまとめで，参加者の皆さんは，“確かな願いと明日への一歩となる挑戦”を，力強く語っていました。

実践発表（外国語）

単元・授業づくり（道徳・人権）

グループ協議（栄養教諭・学校栄養職員）

参加された先生方の“明日への一歩”

・算数は答えを出すための道筋がとても大切で，これからは道筋に重点を置いて授業していきたいと思いました。言語化を意識して子どもが言葉で答えを出せるようにサポートしたい。（算数・数学）
・各教科等との連携や，担任の先生方と積極的に情報交換をしながら，保健指導を充実したものにしていきたい。（学校保健・保健室経営）

◇研修参加者への後日インタビュー　～“明日への一歩”をこれからの食育につなげる～

今回は「食に関する指導」の講座を開設しました。保健厚生課の和田指導主事を助言者として，12 名の栄養教諭・学校栄養職員の先生方が熱心に語り合い，学び合いました。研修後に，長野市立柳原小学校（長野市第四学校給食センター勤務）の**栄養教諭　小林梨恵先生**にお話を伺いました。

栄養教諭として，子どもの健康につながる食育の授業づくりについて学びたいという願いをもち，研修に参加しました。研修を通して，食育の授業の充実に向けて取り組んでいる栄養教諭の仲間がいることに勇気づけられ，他の先生方が取り組む食育の授業や学校とのつながり方を聞き，新しい気づきを得ました。

現在は，研修で学んだことを生かし，教科と連携した食育の授業の具体例や食に関する様々な資料名などを掲載した，来年度の「食に関する指導の全体計画」を作成しています。学校の先生方が食育の授業を構想する際に資料を活用し，授業づくりについて気軽に栄養教諭に相談してもらえるように工夫しています。

インタビューの最後に，小林先生は笑顔で次のように語っていました。**「学校の先生方と積極的につながり，食育の授業づくりを一緒に行い，子どもに食に関する自己管理能力を育成することで，子どもたちが将来幸せに暮らせるようにしたいと思っています！」**栄養教諭として，子どもたちの幸せを願って，日々の給食管理の業務と食育の取組を重ねられている小林先生の熱意が伝わってくるインタビューでした。各校の「食に関する指導の充実」のために参考にしてください。

県下で最も提供食数が多い給食センター（1日約10，900食）の小林栄養教諭

令和６年度初任者研修教師力向上研修Ⅲ

１１月５日に初任者研修「教師力向上研修Ⅲ」を行いました。特別支援教育の視点から自分の取組を振り返ったり，初任者同士でこれまでの自己課題に対する実践について語り合ったりしました。本号では，お二人の初任者の先生の姿を取り上げて，研修での学びと，それを踏まえた自校での実践について，実際に学校に伺い取材させていただきました。その様子を紹介します。

千曲市立東小学校　南 拓海 先生　２学年 学級担任
自己課題「子どもたちの自己肯定感を高めること」

南先生は，４月に子どもたちの様子を見て，お互いを認め合う場を積み重ねることで，学級での居心地の良さや学校生活への楽しさを高めたいと考え，自己課題を設定しました。

＜【教師力向上研修Ⅲでの姿】　～自己課題にかかわる実践とその成果と課題～＞

今回の研修の中で，一緒に協議をした仲間から，教師が子どもをほめることの大切さや，子どもにほめるポイントが伝わるような支援をすること，認め合う活動の具体などについて助言をもらい，「子どもとの生活が今まで以上に楽しみになりました。」という感想を残して研修を終えました。

【学校での取組】　～「後日，指導主事が学校を訪問しました！」～

研修の ２ 週間後の道徳の授業です。自分のよさに目を向けることをねらった授業でした。南先生は，あえて少数派の考えを取り上げ，そのよさを認めました。安心した子どもたちからはたくさんの挙手があり，互いの考えを共有して，学びを深めました。終末には，お互いのよさを付箋に書き合い，渡す活動が行われました。よさが書かれた付箋が配られたときの，伝えられる嬉しさと，自分にも書いてもらえるワクワク感に満ちた表情が印象的でした。授業後，「付箋を渡してくれた友だちに返事を書きたい」と申し出る子どもの姿もありました。

付箋が配られ素敵な表情を見せる子どもたち

自己課題や願いを明確にし，実現に向けて着実に一歩を踏み出すことで，自分自身や子どもを変容へと導いていく南先生の実践を応援しています。

小布施町立小布施中学校　池田 涼香 先生　数学科　教科担任
自己課題「生徒がやりたい・考えたいと思える授業、生徒のことばからつくる授業」

＜【教師力向上研修Ⅲでの姿】　～自己課題にかかわる実践とその成果と課題～＞

池田先生は研修の際に行われたグループ協議で，自己課題に対して自身が取り組んできた数学の授業実践の成果と課題を次のように紹介しました。

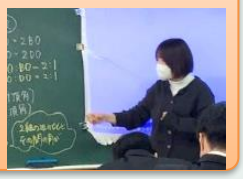
【自己課題にかかわる実践】
- 生徒が疑問を感じ，自然と対話が生まれるような問題の提示の仕方を工夫する。
- 振り返りで出た疑問を大事に位置付け，学習問題を生徒の言葉で据える。

【成果と課題】
前向きに問題に向かおうとする姿が見られるようになったが，生徒の言葉をつなげ，自ら「やってみたい！」と追究していくような問いを据えることに難しさを感じている。

その後，「先生が無理に引っ張るのではなく，みんなの問いにするための問いかけの工夫をしてみては」「単元のどこで，どのような問いを据えるか精査する必要がありそうだ」という助言を受け，「生徒の言葉を聞き，様子をよく見ることで思いに寄り添う授業づくりにつなげたい」という感想を残しました。

【学校での取組】　～後日，指導主事が学校を訪問しました！～

生徒の問いにするために「今の考えに近い考えはある？」等，問い返すよう心掛けているという池田先生。授業を終えて「自分事になる『問い』が据わらないと，自ら考えたいとは思えない。みんなが考えたいと思える『問い』を据えるのは難しいです」と，振り返っていました。だからこそ「生徒の言葉をつなげたり問い返しをしたりして広げていくこと」や「単元を見通し，内容のつながりを意識した問いを考えること」等，研修でもらったアドバイスを，改めて今後の課題としたいと語っていました。様々な研修，日々の授業を通して自身の実践を振り返り，成長しようとする池田先生の取組を今後の研修でも共有していきたいです。



第２回北信地区外国人児童生徒等指導研修会

自校に，外国等にルーツをもち，日本語を学んでいる子どもたちはいますか？ 本研修会は，日頃，日本語指導を担当されている先生や支援員，学級担任の先生方等が，よりよい指導や関わりについて学び合う場です。本年度は 11 月 12 日に，長野市立犀陵中学校を会場に行われました。

授業公開をしてくださったのは丸山裕美先生です。併せて，普段から在籍学級で，外国ルーツの生徒の母語による支援をしている島田博代先生の実践も参観させていただきました。犀陵中学校の取組の特徴は，「日本語教室（「国際室」）」と「在籍学級」との連携を意識した指導体制・指導内容の工夫です。

＜公開授業より＞

つぶやきをひろいながら，教科の学習を支えている丸山先生

生徒は，教科特有の学習用語等を国際室で先取りして学んでいます

在籍学級で国際室での学習内容を振り返りながら島田先生と学習を進めています

＜意見交換会・情報交換会より＞

授業参観を通して得た学びや今後の指導のヒントを語り合いました

教材や指導の工夫について活発な意見や情報の交換がありました

信州大学教授徳井厚子先生から指導のポイントをお聞きしました

＜参会の皆さんの「振り返り」から＞

国際室と在籍学級のそれぞれの役割をはっきりさせて，生徒が教科学習に取り組みやすいように工夫されていて，学校として１人１人の学びを支えようとする取組のよさを感じました。

教科学習や日本語指導の中に，母国語も取り入れて理解を深めていくことは有効だと思いました。ぜひ，自分の学校でも，工夫して指導の中に，位置付けていきたいです。

普段考えていることや悩んでいることをフリートークの形で，様々な人とお話ができて，毎日の授業につながるヒントを得ることができました。紹介してもらった教材も使ってみたいです。

＜丸山先生の実践から＞

丸山先生に作成いただいた資料の冒頭には，次の言葉がありました。

「子どもの個性を生かす支援・夢の実現」

今回の実践の“根っこ”には，国際室で学ぶ生徒に対して，「日本語も母国語も両方習得できる可能性のある子」「言葉だけでなく，考える力や判断する力も育成する指導をしたい」「その子らしさを大切にし，願いの実現を支えたい」といった丸山先生の思いが伝わってきます。丸山先生や犀陵中学校の実践を通して，教科学習につながる日本語指導の工夫と具体的な指導方法に加えて， 日本語指導に携わる教員としての「子ども観」「授業観」にふれることができました。日頃の指導を見つめ直しつつ，子どもをどのような存在として捉えて日々関わっていくのかを，改めて考え合う研修会でした。

いじめ・不登校地域支援事業

令和６年度　第２回地区推進会議

10 月 11 日に行われた第2回地区推進会議では，まず心の支援課 川口指導主事による「いじめ・不登校に係る文部科学省通知等について」の説明がありました。続いて，心の支援課 太田指導主事による，実際に起こり得る学校生活の場面を想定しながら生徒指導の対応を振り返る「法やガイドラインに基づく生徒指導」と，長野少年鑑別所（法務少年支援センター）の山本統括専門官による，問題行動の背景にある様々な要因を踏まえた上で支援を考えていく「学校におけるいじめの理解と対応について」の講演から具体的な事例と支援について研修しました。参加者の感想を紹介します。

- 改めて「いじめ」の法やガイドラインを知ることができた。自分の考えは古いものであることが分かり，刷新することができました。（高校）
- 「法やガイドラインに基づく生徒指導」の内容が非常によかった。実際の指導の中で迷う場面があっても，活用できる内容でした。（高校）
- 話を聞く姿勢で，言わせようとしないことも大切。「なぜ」「どうして」は，逆効果というのもわかりやすかったです。（中学校）
- 少年鑑別所に地域援助の役割があることを知ることができました。（特別支援学校）
- 山本先生に学校に来ていただき，職員へ研修会を行ってもらいたいと感じました。（小学校）

不登校や不登校傾向等の
中学生・保護者のための

高校進学説明会

10 月 31 日（木），11 月 1 日（金）の2日間，長野合同庁舎にて，高校進学説明会を開催しました。2日間での来場人数は中学生が 121 人，保護者が 203 人，教職員等その他の方は 18 人，合計で 342 人となり，昨年度より増加しました。

参加者が希望する学校等のブースを回り，1カ所あたり 10 分と限られた時間ではありましたが，各校の担当者や，ながの若者サポートステーションの職員と相談を行いました。いただいた感想を紹介します。

- 相談で色々と話したことで，不安なところ，分からないところがなくなったので，来てよかったなと思いました。（３年生）
- メリットも言ってくれたけど，しっかりデメリットも言ってくれたから進路の参考になりました。はじめはあまり行きたくないと思っていたけど，細かく教えていただけたのが良かったと思いました。（３年生）
- ネットで見たものより具体的な話で，進路が決めやすくなりました。（２年生）
- ３年生だけだと思っていたので，２年生の時にも参加すればよかったです。（保護者）
- これからすべきこと，学校の雰囲気など具体的に教えていただき，子どものモチベーションが上がった感じがします。（保護者）